

平成 18 年度

# 病害虫発生予察注意報 (第 1 号)

平成 18 年 5 月 23 日  
茨城県病害虫防除所

## 小麦赤かび病の発生が多くなると予想されます 防除を確実に実施しましょう

作物名:小麦  
病害虫名:赤かび病

### [発令の内容]

予想発生量:多い  
予想発生地域:県下全域

### [発令の根拠]

5月第2半旬になって曇雨天が多くなり、感染を助長する条件が続いている。  
(水戸における5月6日から5月20日までの日照時間は平年比32%)  
気象予報(5月19日発表)によると、向こう1か月も平年に比べ曇りや雨の日が多いと予想されている。  
六条大麦および出穂が早かった小麦では、一部で発病を確認している。  
本年は、小麦の生育が平年より遅れており、今後も本病に感染しやすい生育ステージにある。

### [防除対策]

表1を参考に薬剤散布を行う。小麦の防除適期は開花期(出穂後7~10日頃)であるが、開花期から10日程度の間が最も感染しやすい時期であるため、1回目の散布の7~10日後に2回目の散布を行う。ただし、薬剤によっては出穂後1回しか使用できないものもあるので注意する。薬剤散布後、降雨が予想される場合は、粉剤よりも液剤、水和剤、乳剤、フロアブルなどの方がより高い効果が期待できる。  
薬剤散布の際は、周辺作物等への飛散(ドリフト)に十分注意する。  
収穫が遅れると、被害粒から健全粒へと感染が広がる恐れがあるため、適期収穫に努める。また、収穫後は速やかに乾燥・調製を行う。  
グレーダー等による粒厚選別(2.4mm以上)等は被害粒の除去に有効である。

表1 麦類および小麦の赤かび病に登録のある主な農薬(平成18年5月18日現在)

薬剤名	希釈倍数・使用量	収穫前日数 - 本剤の使用回数	対象作物	有効成分 - 有効成分の総使用回数
コロナフロアブル	400倍	- - 5	麦類	硫黄 - 5
ストロビーフロアブル	2,000~3,000倍	1 4 - 3	麦類	外洋泓刈 - 3
チルト乳剤25	1,000~2,000倍	3 - 3	小麦	プロコザール - 5(根雪前は2,春期以降は3)
	8倍(無人刈散布)	7 - 3		
トップジンM水和剤	1,000~1,500倍	1 4 - 3(出穂期以降は1)	小麦	チオファネートメチル - 3(種子への処理は1,出穂期以降は1)
ベフラン液剤25	1,000~2,000倍	2 1 - 5(出穂期以降は2)	小麦	ミカダジン - 5(種子への処理は1,無人刈散布は2,出穂期以降は2)
ベルコート水和剤	1,000~2,000倍	2 1 - 5(出穂期以降は2)	小麦	ミカダジン - 5(出穂期以降は2)

農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用方法・注意事項等を確認のうえ使用してください。